

地震時等に著しく危険な密集市街地対策 【国土交通省】

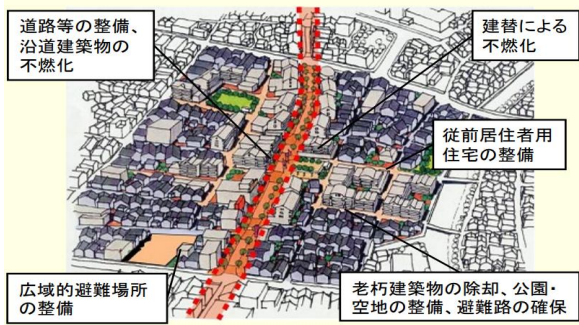


施策概要 危険密集市街地において、老朽建築物の除却や延焼防止性能を有する建築物への建替、避難路となる道路や避難地となる公園等の整備を促進

効果 地震時等における密集市街地での火災延焼を防止し、人命・財産を保護する

全国的な対策と効果

対策1 老朽建築物の除却、避難地となる公園・空地の整備



対策2 道路の整備、沿道建築物の建替による不燃化



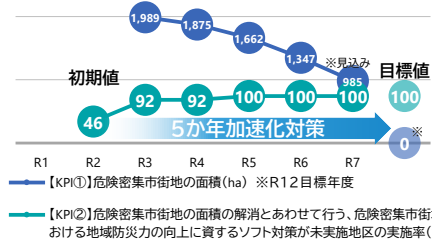
	都道府県	R2年度末	R7年度末	
①	大阪府	1,014ha	218ha	(796ha減)
②	東京都	247ha	45ha	(202ha減)
③	神奈川県	355ha	251ha	(104ha減)
全国値 (①~③以外含む)		2,219ha	985ha	(1,234ha減)

予算額(国費)(加速化・深化分)

R3	R4	R5
5億円	2億円	-
R6	R7	累計
-	-	7億円

※ このほか、加速化・深化分以外の予算も措置されている

目標達成の見通し



整備事例

生活道路の整備により、延焼危険性を低減・避難経路を確保する



大阪府門真市



大阪府門真市
(北部地区 古川橋駅北)



住宅市街地総合整備事業
(密集住宅市街地整備型)

生活道路の整備

門真市 北部地区 古川橋駅北



幅員9.2mの道路を創出



沿道の老朽建築物が除却され、道路空間が確保されることにより、延焼の危険性がある範囲が分断され、まちの防災性が向上

事業費

1.6億円 (うち5か年加速化対策(加速化・深化分)0.27億円)

事業の背景(地域の課題)

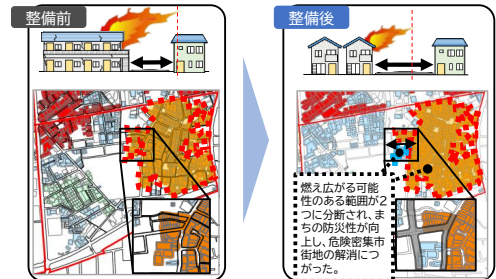
門真市北部地区は、昭和40年前後に文化住宅、長屋住宅等が、道路・公園等の公共施設が未整備のまま大量に建設された結果、老朽住宅が密集した地区が形成され、防災上、居住環境の面で問題を抱えていました。地区内では木造賃貸住宅等の老朽化や空家の増加が進んでおり、地区の衰退と住環境の悪化が著しく、また、生活道路が改善されないまま、家屋等の建て替わりは解消されていない状況でした。

事業の内容

本地区では、老朽建築物等の建替えと公共施設の整備を促進し、住環境の改善及び防災性の向上等を図るため、住宅市街地総合整備事業を実施しています。本事業を活用して、道路の整備や老朽建築物の除却・不燃建築物への建替え更新など、密集市街地の改善を推進しているところであり、老朽建築物が密集するエリアにおいて、幅員9.2mの生活道路の整備を実施しました。

見込まれる効果

主要な生活道路の整備により、沿道の燃えやすい老朽建築物が除却、道路空間が確保されたことにより、延焼の危険性がある範囲が分断され、まちの防災性が向上します。また、道路の拡幅により、緊急車両の通行空間を確保するとともに、災害時において、円滑な避難が可能となります。



人命・財産の被害最小化
激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策

交通・インフラの維持

インフラの老朽化対策

国土強靱化に関する施策を効率的に進めるためのデジタル化等の推進
施策のデジタル化

災害関連情報の高度化